

# 高校生 I C T 2022 Conference

in 全国オンライン

～テーマ～

デジタル社会における学び方と学びの場

ーオンライン環境で「出来ること」「すべきこと」

## 開催報告書

2022年10月10日(祝)12:30-17:00

【会場】： オンライン (Zoom)

主催

高校生 I C Tカンファレンス実行委員会

(構成団体)

一般社団法人安心ネットづくり促進協議会

大阪私学教育情報化研究会

一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会

共催

内閣府、警察庁、消費者庁、総務省、文部科学省、経済産業省

2022年11月16日

## 目 次

1. 開催概要.....	2
2. 高校生 ICT Conference 2022 地域開催.....	4
3. 高校生 ICT Conference 2022in 全国オンライン 開催概要.....	4
<b>4. 主担当</b> .....	<b>8</b>
5. 高校生 ICT Conference 2022 サミット.....	8
6. 高校生 ICT Conference 最終報告会.....	8
7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応.....	9

## 1. 開催概要

名称：	高校生 ICT Conference 2022 テーマ： デジタル社会における学び方と学びの場 ーオンライン環境で「出来ること」「すべきこと」
主催：	高校生 ICTカンファレンス実行委員会 (構成団体) ● 一般社団法人安心ネットづくり促進協議会 ● 大阪私学教育情報化研究会 ● 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会
共催：	内閣府、警察庁、消費者庁、総務省、文部科学省、経済産業省
後援：	一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会、全国高等学校情報教育研究会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、一般財団法人マルチメディア振興センター、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構
協賛：	グーグル合同会社、株式会社ラック、日本マイクロソフト株式会社、株式会社メディア開発総研、株式会社ディー・エヌ・エー、Bytedance 株式会社、グリー株式会社、アルプス システム インテグレーション株式会社、エースチャイルド株式会社、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、株式会社サイバーフェリックス
協力：	株式会社内田洋行、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、デジタルアーツ株式会社、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、ストップイットジャパン株式会社
開催目的：	<p>高校生 ICT Conference は、2011 年度に「ICT プロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&amp;活用法～」として大阪でスタートしました。2012 年度は、東京開催を加え計 17 校 79 人の高校生が参加、その後順次規模を拡大し、2020 年度には、全国 15 拠点にて開催し、計 86 校 360 人の高校生が参加しました。</p> <p>高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。</p> <p><b>【本年開催テーマのコンセプト】</b> 2019 年 12 月に感染が始まった新型コロナにより、それ以前の日常は激変し、人と人が直接接する機会をなるべく減らす新しいコミュニケーションの時代に入っています。学校においては同年代が集まり語り合い、切磋琢磨するこれまでの姿は無</p>

	<p>くなり、分散登校やオンライン授業の導入、マスクの常時着用や部活動の制限による社会的距離の確保を前提とする学校生活に変わりました。中でも、高校生に大きな影響を及ぼしているのがオンライン授業の広範囲な導入です。</p> <p>コロナの完全終結は未だですが、ワクチン接種や治療薬の開発が進み、少しずつ新たな生活スタイルの模索が始まっています。これから始まる新しい生活スタイルはどうか、新型コロナにより待たなしで始まった現在のデジタル社会はどうか、オンラインをテーマに問題点や課題を洗い出し、新たなデジタル社会への希望とこれまでとは違うライフスタイルへの期待を明らかにする。</p> <p>※平成21年4月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まった。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政に於いても施行状況の検討が進められている。一方、新学習指導要領が平成23年度の小学校を皮切りに、平成24年は中学校、平成25年度は高等学校で全面实施される。また、急速に普及を始めたスマートフォンや新しいICT（情報通信技術）サービスにおいて、青少年が健全にICTを利活用できるように育成するため、青少年への指導に加え、保護者や教職員への「情報モラル教育」の啓発活動が重要視されている。スマートフォンの登場などにより急速に変化したインターネット利用環境下における諸問題について議論し、高校生が家庭や学校で取り組むべき課題とともに、行政、事業者等への要望について本取組で提案し参考に資する。</p>
開催の概要：	<p>【各開催地での内容】※日程は、2. 地域開催の欄をご覧ください。</p> <p>(1) 挨拶 (2) 講演 (3) アイスブレイク (4) 熟議 (5) グループ発表 (6) 講評 (7) サミット参加者発表</p> <p>【東京サミット】</p> <p>(1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表 (5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表</p> <p>【最終報告会】</p> <p>(1) 各府省庁への提言発表（プレゼン） (2) 質疑応答・意見交換</p>
各開催地 募集人員等：	<p>募集参加生徒 30名（各開催地により変動あり） 募集見学者各回 30名（各開催地により変動あり）</p>
参加参観方法：	<p>参加費・参観無料 [要事前登録]</p>
高校生 ICT Conference 実行委員会：	<p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 米田謙三（大阪私学教育情報化研究会 副会長）</li> </ul> <p>【コアメンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 石田幸枝（公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT研究会理事・消費者団体訴訟室長）</li> <li>・ 植田 威（特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事）</li> <li>・ 小城 英子（聖心女子大学）</li> <li>・ 他、関係者団体、事業者等</li> </ul>

	<p><b>【事務局】</b>          一般社団法人安心ネットづくり促進協議会          〒104-0041 東京都中央区新富二丁目4番5号 ニュー新富ビル4階          TEL: 03-6280-4901</p>
--	--

## 2. 高校生 ICT Conference 2022 地域開催

高校生 ICT Conference 地域開催では参加した高校生がテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜します。

開催地	開催日時	会場
北海道	10月2日	オンライン
茨城	8月23日	茨城県立石岡第一高等学校
東京	9月19日	情報セキュリティ大学院大学東京オフィス
新潟	8月18日	オンライン
石川	10月2日	金沢勤労者プラザ
長野	10月15日	オンライン
静岡	9月11日	専門学校 静岡電子情報カレッジ
大阪	9月18日	オンライン
奈良	10月9日	帝塚山大学
高知	8月16日	オンライン
福岡	9月23日	福岡県中小企業振興センター
長崎	8月20日	オンライン
大分	9月23日	大分市
全国オンライン	10月10日	オンライン
サミット	11月3日	未定
最終報告会	12月15日	

## 3. 高校生 ICT Conference 2022in 全国オンライン 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など 31名の参加者を得て、“デジタル社会における学び方と学びの場 オンライン環境で「出来ること」「すべきこと」をテーマに高校生が Zoom を使いグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p><b>【熟議】</b>  <b>司会進行・主旨説明 実行委員長 米田謙三 様</b>          高校生 ICT Conference の概要及び本日の大まかな流れを説明していただきました。特にオンライン開催ならではのポイントや主旨なども説明してもらいました。</p> <p><b>開会の挨拶</b>  <b>総務省報流通行政局 情報流通振興課 課長補佐 畠山 浩輝 様</b>          まず、総務省の役割（携帯電話、放送、サイバーセキュリティ等）についてご説明いただきました。次に、高校生 ICT カンファレンス全国オンラインでは全国各地から参加されており、このような経験はなかなかなく貴重な経験で良い刺激となるので、納得行くまで議論して政策を作っていただきたい、とご挨拶をいただきました。</p>
----	---

## 第一部 事業者による講演

日本マイクロソフト株式会社 政策渉外・法務本部 ディレクター 井田充彦 様  
「デジタル化が進む社会」「デジタル社会で生きていくために大切なこと」「テクノロジーの活用事例」の3点についてお話をいただきました。

### 1, デジタル化が進む社会

産業のデジタル化、学校での GIGA スクールの展開などで社会が変化している

### 2, デジタル社会で生きていくために大切なこと

便利なこと、新しいことが出てくる一方でフェイク、ウイルス、誹謗中傷、なりすましなどの課題も出てきた。大事なことは、より安全により責任をもってテクノロジーやデバイスを適切に使用すること。特に「デジタルシチズンシップ」が大切。マイクロソフトでは「デジタルリテラシー」と「デジタルシビリティ（オンライン上での礼儀）」を大事にしている。

後者は「自分がして欲しいことを人にもする」「違いを尊重する」「返信する前にひと呼吸する」「自身と他の人のために行動する」の4つを大切にしている。そのためにマイクロソフトではデジタルセイフティのコンテンツの作成や ICT カンファレンスのような取り組み支援を米国・EU などでおこなっている。

### 3, テクノロジーの活用事例

テクノロジーの進化の例として、AI とモーショントラッキングがテニスを変える事例、データ革命を引き起こした NBA CourtOptix の最新事例を紹介いただき、最後にマイクロソフトが考える近未来の映像を紹介いただいた。

## アイスブレイク、 自己紹介

3つのグループのブレイクアウトルームにわかれてから、それぞれのグループのファシリテーターを務める大学生から本日の目標、アイスブレイク、自己紹介などを実施しました。

## 第二部：熟議： デジタル社会における学び方と学びの場

### ーオンライン環境で「出来ること」「すべきこと」

ブレイクアウトルームで3つのグループに分かれ大学生がファシリテーターとなって、高校生熟議を開始しました。まずは「学業の視点から」次に「コミュニケーション能力の視点から」ということを中心に Google スライドを活用しながら意見を整理分類しまとめて行きました。具体的な使い方については、テーマにしぼった班や少し大きなテーマで取り組んだ班などいろいろとありました。熟議の中で分からない事は、企業の方や先生方にも随時サポーターとして入っていただき、すばやく教えてくださいました。今回、ファシリテーターは大学生でしたが、事前にオンラインでのフォームやまとめ方を打ち合わせして、滞りなくまとめることができました。(研修を今年も隔週土曜日で実施しました)

今回の全国オンラインの熟議で大切にしたいポイント

1,学校とは何か

2,オンラインのメリットとデメリット

3,理想のオンライン

4,高校生が期待するコミュニケーションの未来

(詳細は別紙「熟議録」をご参照ください)

### 第三部：グループ発表

各グループともプレゼンテーションソフト (Google スライド) を活用して3分の発表を行いました。(詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください)

今年もオンラインでしたがどのグループもその分内容が充実していてスライドとしてよくまとまった発表となりました。すぐにできる提言も沢山ありました。

参考：各班のポイント 3班が代表グループに選ばれました。

#### 【1班】 オンライン授業について

メリットとデメリット

誰とでも簡単に、時間節約・・・でも デメリットも・・・

解決策

- ・wi-fi の環境 高性能マイク ・オンラインでの対面の他に直接会う機会
- ・言葉だけでは伝わらないことは顔文字などでジェスチャーをする。
- ・パソコンの共有機能を使用・その日のコンディションによって時間割を決める。

※一日の授業時間を 50分×6時間とすると一週間で 35時間うければ良い！！

学びたいこと

①海外の人たちとの交流 様々な国との交流

②プロの方からの講義 スポーツ サイエンス 質問・意見を述べることも可能

#### 【2班】 アンチコメントと個人情報

具体的対策

- ・NGワードを設定
- ・コメントに対して多くの批判が集まると BAN される
- ・非表示にしておく
- ・コメント機能を無効化する
- ・コメント欄でアンチコメントを書かれた側へのサポートや保護をする

個人情報

- ・保護者護者がフィルタリング機能
- ・個人情報を入力する際、入力してもよいのかをしっかりと考えてから入力
- ・パスワードは他人が予測しにくいものを使用
- ・二段階認証などがある場合は活用

#### 【3班】 オンラインでもソーシャルディスタンス！

<先生視点>

- ・生徒が沢山いると生徒一人ひとりの進行状況を把握するのが難しい。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が話す場面が作りにくい。</li> <li>・生徒が発言する回数が少なく本当に理解しているのか分からない。⇒授業ペースが落ちる</li> </ul> <p style="text-align: center;">＜生徒視点＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常に誰かに見られてるんじゃないか</li> <li>・誰に顔を見られているかわからない不安</li> <li>・カメラがオフの時は集中できずさぼってしまう</li> <li>・逆にカメラがオンの時は全員に顔を見られているため集中しすぎてしまい 疲れる</li> </ul> <p style="text-align: center;">改善策 「グループワーク」</p> <p style="text-align: center;">先生も授業しやすく、生徒も授業を受けやすい</p> <p>その後、参加生徒により、11月3日に開催される東京サミットに行く代表校の選定投票を行い、敦賀高等学校が代表校に選出され、発表されました。</p> <p><b>講評：大阪私学教育情報化研究会 副会長 米田謙三 様</b></p> <p>神奈川、福井、兵庫、佐賀地区からオンラインで参加いただきました。大学生のファシリテーターのもと本当にいろいろな意見がここまで出てきて大変良かったと思います。また今回話し合った事を、学校や地域に戻っても話しあってほしいと思います。また次年度以降も参加してほしいと思います。最後に引用「デジタルシチズンシップ」が大切になってきます。1. デジタルリテラシーと2. デジタルシビリティ（オンライン上での礼儀）を大事に」を紹介し未来を創る担い手にエールを送って終わりました。</p>
参加校：	兵庫県立福崎高等学校 福井県立敦賀高等学校 龍谷高等学校 福井県立三国高等学校 神奈川県立平塚江南高等学校 (順不同)
日 時：	2022年10月10日（祝）12：30－17：00
場 所：	オンライン（Zoom）
参加人数：	熟議参加生徒 16人 見学者・関係者 15人（教員・教育関係者・その他） 合計： 31人
熟議グループ：	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略）  <b>【グループ名：1】6名</b> 福井県立三国高等学校2年女子、兵庫県立福崎高等学校2年男子、兵庫県立福崎高等学校2年女子、福井県立敦賀高等学校2年女子、福井県立三国高等学校2年男子、兵庫県立福崎高等学校2年女子

	<p>[ファシリテーター] 帝塚山大学 佐々木崇光</p> <p>【グループ名：2】5名 福井県立三国高等学校2年男子、兵庫県立福崎高等学校2年女子、龍谷高等学校1年女子、兵庫県立福崎高等学校2年男子、兵庫県立福崎高等学校2女子</p> <p>[ファシリテーター] 上智大学 矢野莉央 関西学院大学 橋田喜乃</p> <p>【グループ名：3】5名 福井県立三国高等学校2年男子、兵庫県立福崎高等学校2年女子、龍谷高等学校1年女子、兵庫県立福崎高等学校2年男子、兵庫県立福崎高等学校2女子</p> <p>[ファシリテーター] 関西学院大学 杉本花</p>
--	--

#### 4. 主担当

一般社団法人安心ネットづくり促進協議会	事務局
一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動 全国連絡会各団体、事業者等	講演、他

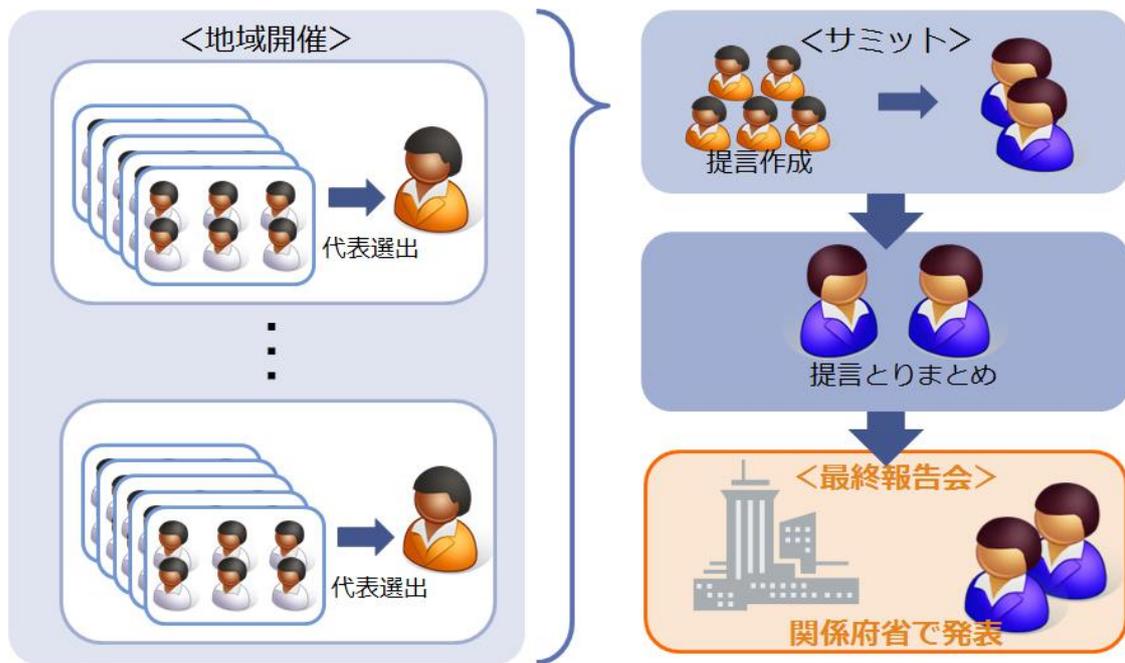
#### 5. 高校生 ICT Conference 2022 サミット

高校生 ICT Conference 2022 サミットは、各地で開催された Conference の成果を高校生の代表として提言をまとめるための場です。その代表者の選考は以下の手順によります。

- 1) 参加が決まった場合、参加生徒を決めていただき、事前に登録をする
- 2) 熟議終了後、参加生徒の投票を基に代表を選出
- 3) 各地の代表者でサミット開催
- 4) サミット終了後、最終報告会で発表する代表を上記手順と同様に選出
- 5) 最終報告会代表者が、サミットの内容を提言にまとめ、最終報告会で提言発表を行う

#### 6. 高校生 ICT Conference 最終報告会

高校生 ICT Conference 2022 サミットで検討された提言を、選出された代表者が報告用にとりまとめ、関係府省庁にて報告を行うとともに、関係府省担当者との意見交換によりコミュニケーションを踏む。



## 7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応

- 1) グループ発表資料保存（又は模造紙など発表紙面の撮影）
- 2) Conference 終了後、発表内容、講評と併せて高校生 ICT Conference のサイトにアップデート
- 3) 高校生 ICT Conference 2022 サミット終了後、実行委員会にて取りまとめ
- 4) 高校生 ICT Conference 2022 サミット代表者による最終報告会用資料の作成
- 5) 最終報告会での発表

以 上